

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理学基礎実験		必修 (心) 選択 (社.精)	2	2.3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
柁木 隆寿	B306	t.masaki	金曜日 12:00~14:30		
授業の目的・概要	<p>〈目的〉 心理学における研究 (実験・調査) の意義を理解する。基本的な心理学実験・調査の手続き、データ解析方法を習得する。研究レポートの執筆方法を習得する。</p> <p>〈概要〉 心理学を専門的に学ぶ上では、講義で得られる知識だけではなく、実験や調査といった研究を行う能力の習得も重要である。本講義では、心理学における基本的な実験をグループに分かれて行う。各個人が1テーマにつき1つのレポートを作成し、提出する。提出されたレポートは担当教員の添削指導を受けて返却される。 なお、この講義はすべて対面授業方式をとる予定である。備考にある注意点も確認すること。</p>				
学習上の助言	心理学の入門講義、統計学に関する講義 (心理データ解析等) の内容について復習しておくこと。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	心理学実験を学ぼう! / 小河妙子 他 / 金剛出版 心理学基礎実習マニュアル / 宮谷真人 他 (代表編集) / 北大路書房				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理学における実験・調査の重要性を理解し、説明することができる。			心(2)	
②	心理学研究における様々な実験手法を理解し、実施することができる。			心(2)	
③	得られたデータに対して適切な統計分析を行うことができる。			心(2)	
④	研究レポートを執筆規定に従って作成することができる。			心(2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション：実習の進め方について理解する。	講義	シラバス・配付資料を熟読し、本講義の概要をまとめる。	1	
2	1. 精神物理学的測定法①：ミュラーリヤー錯視に関する実験を行う。(1)	講義・演習	精神物理学的測定法の種類について整理する。レポート作成に必要な情報を集め、作成する。	4	
3	1. 精神物理学的測定法①：ミュラーリヤー錯視に関する実験を行う。(2)	講義・演習		4	
4	レポートの書き方について学ぶ。	講義・演習		6	
5	2. 知覚運動学習：鏡映描写実験を行う。(1)	講義・演習		知覚運動学習の日常例を考える。レポート作成に必要な情報を集め、作成する。	4
6	2. 知覚運動学習：鏡映描写実験を行う。(2)	講義・演習	4		
7	Excel の使い方と統計処理の基礎について学ぶ。	講義・演習	6		
8	3. 認知心理学実験①：ストループ効果の実験を行う。(1)	講義・演習	ストループ効果、ストループ様効果について整理する。レポート作成に必要な情報を集め、作成する。	4	
9	3. 認知心理学実験①：ストループ効果の実験を行う。(2)	講義・演習		4	
10	3. 認知心理学実験①：ストループ効果の実験を行う。(3)	講義・演習		6	
11	4. 質問紙法：SD 法によるイメージの分析に関する調査を行う。(1)	講義・演習	SD 法を用いた過去研究を調べる。レポート作成に必要な情報を集め、作成する。	4	
12	4. 質問紙法：SD 法によるイメージの分析に関する調査を行う。(2)	講義・演習		4	
13	4. 質問紙法：SD 法によるイメージの分析に関する調査を行う。(3)	講義・演習		6	
14	心理学研究における情報機器の利用方法、および研究倫理について学ぶ。	講義・演習	資料を精読する。	2	
15	様々な心理学実験について学ぶ。心理学実験の計画案を作成する。	講義・演習	資料を精読し、本講義で得た知識・技術を整理する。	1	
試					

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	60	0	0	40	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	5	15
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	10	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	20	0	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	5	15
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	計 4 つのレポートの提出が単位取得には必須である。配布したレポート作成マニュアルをもとに、体裁、内容、表現力等により 10 段階で評価する。				提出されたレポートは、添削後に返却する。再提出を求められることもある。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	実験・調査への取組み（態度、質疑応答、グループ作業）、各回の課題の達成度を総合的に判断する。				講義中及びオフィスアワーにて総評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>履修する学生は第 1 回目のオリエンテーションに必ず出席し、内容を確認すること。公欠等、やむを得ない理由で出席できない場合は、第 1 回目授業が始まる前までに、担当教員に必ず連絡すること。</p> <p>4 つの研究を全て経験することとレポートの全提出が単位取得の前提条件である。そのため、原則、全ての講義に出席することが必要となるので留意すること（無断欠席・遅刻は厳禁）。</p> <p>実践的授業の内容：自らが実験者および被験者（実験参加者）となって、心理学実験機器を使用し実際にデータを測定する。また、適切な統計分析の実施、研究レポート（報告書）の作成ができるように、知識だけでなく、ノート PC の使用方法等、実践的な技術についても学んでいく。</p> <p>※Teams の各クラスで諸事の連絡を行うので確認を怠らないこと。また、全 15 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。</p> <p>なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p>							